

開催日：平成 26 年 12 月 19 日

会議名：平成 26 年第 5 回定例会（第 4 日 12 月 19 日）

○（吉田章浩議員） 皆さん、おはようございます。公明党の吉田章浩です。今回は、高槻市の観光施策と案内等について、一般質問をさせていただきます。

今年度、本市では、暮らす日々の魅力を伝える「たかつき DAYS」が創刊され、その表紙には、日本でここにしかない、自由に歩き回ることができる歴史的遺産今城塚古墳や、景勝地摂津峡から続く、市の中央を流れる芥川で自然いっぱいの中で網を持って楽しむ子どもたちの写真で飾られており、高槻市の魅力を発信されていました。私たちのふるさとは何とすてきなまちなんだらうと感じられた方は、多くいらっしゃるのではないのでしょうか。高槻で暮らす人々や訪れる人々が、誰もが魅力を感じ、安らぎとゆとりと潤いを感じるまちづくりを目的に、その手段の一つとなる観光の取り組みに、特に昨日もあった情報発信、また案内のあり方について、地域でお聞きした市民相談を踏まえて、ご質問をさせていただきますと思います。

平成 24 年度から 27 年度までの高槻市観光振興計画では、基本理念（テーマ）を、「地域が潤いビジネスが育つ、立ち寄り型・日帰り観光『高槻スタイル』の確立を目指して」と設定されています。まず、お尋ねしたいことは、高槻市にとっての観光とはどういうことなのか、振興計画のテーマの考え方もお聞きして、本市にとっての観光について整理をさせていただきますと思います。

また、高槻の観光にはどのようなものがあるのか、そして振興計画でも触れている、的確に情報発信することにより、本来観光地ではない本市においても、集客をふやせる可能性が高まっているとありますが、情報発信についてはどのような取り組みをされているのか、お聞かせ願います。

以上、1 問目でございます。

〔産業環境部長（田中之彦）登壇〕

○産業環境部長（田中之彦） 高槻市の観光施策と案内等についてのご質問に、ご答弁申し上げます。

まず、自然・歴史・文化など豊かな観光資源や交通の利便性に富んだ本市にとっての観光についてでございますが、ふらっと気軽に立ち寄れるお出かけ感覚の観光や、住宅都市特有のゆったりとした雰囲気、商業施設や店舗の集積による商品・サービスへの期待感などをキーワードにした日帰り観光が主流と考えております。今後につきましては、観光資源のさらなる重点化、絞り込みを行い、経済活性化につながる事業の展開を行うことで、交流人口や観光客の増加を目指してまいりたいと考えております。

次に、観光振興計画のテーマの考え方でございますが、これまで住宅都市としての印象が強かった本市にとって、従来型の観光、いわゆる団体旅行やツアーの訪問先として選択されることは多くはありませんでした。そのような中、交流人口の増加を推進するためには、従来の観光という言葉にこだわらず、高槻ならではのよさ、都会と田舎の要素をあわせ持つ「どっちもたかつき」の魅力を訴求し、気軽に立ち寄れるまちのイメージづくりを展開する中での「高槻スタイル」の確立を目指し、テーマ設定を行っております。

続きまして、高槻の観光資源についてでございますが、観光振興計画の重点エリアごとに申しますと、摂津峡周辺及び原・榎田地区には、摂津峡や森林観光センター、原の里山のほか、神峯山寺、本山寺などがございます。また、いましろ大王の杜を含む富田地区には、寺内町の町並みや酒蔵、普門寺や三輪神社などがあり、高槻・芥川地区には、しろあと歴史館、城跡公園、芥川一里塚、城下町や宿場町の風情が残る町並みなどがございます。

最後に、情報発信の取り組みにつきましては、広報誌、ホームページによるPRのほか、11種類の高槻散策マップやその他各種観光パンフレットによる継続的な情報発信を行っております。また、本市のマスコットキャラクターはにたんを活用したプロモーション活動の展開や、鉄道事業者との連携による観光PRイベントの実施、他の市町村との連携による歴史街道推進協議会や、「阪急京都線沿線観光あるき」を通じた観光PRなどを行っており、今後も、より効果的で効率的な情報発信に努めてまいります。

以上でございます。

<PAGE="144">

○（吉田章浩議員） ご答弁をいただきまして、本市の自然・歴史・文化等の観光資源と商業サービスとの重点化で、お出かけ感覚、日帰り感覚を主流とし、観光という言葉にはこだわらない、高槻ならではのよさ、「高槻スタイル」の確立を目指されており、情報発信も今後も、より効果・効率的に努め、交流人口等の増加を目指していくとのことでありました。

私は、これらのご答弁には理解をしておりますが、観光振興計画の趣旨にもありますように、人々に生きがいや安らぎ、ゆとりと潤いのある生活を感じていただくことが大切であり、観光という手段を、さまざまな手法を用いて充実さしていただきたいと感じております。

過日、私のほうにいただきました市民相談、それは三好山への登山についての内容でした。聴覚に障がいのある方が三好山を目指された時のことでした。登山口は幾つかのルートがありますが、黄金の里方面から三好山を目指されたようです。登り口がわからないと地域周辺の方に尋ねられたようですが、問い合わせを受けられた方も丁寧に説明されたようで、しかしうまく伝えることが

できなかったというような心配が残り、もし適切な案内等があればよかったの
にと感じられたのではないかと推察するところであります。

皆様ご存じのとおり、三好山は、市のホームページ「歴史・観光」で紹介も
されております。芥川山城跡があるところであります。永正年間に管領細川高
国が築城したと伝えられ、初代城主は能勢頼則、天文22年には三好長慶が城
主となり、大阪府でも最も規模の大きな城跡として有名であります。また、先
ほどの答弁でも、高槻の観光の取り組みについて情報発信のツールであるガイ
ドマップが、樫田、原、摂津峡、今城塚、安満、富田、津之江等々11種類の
ものがあると、数多くそろえられていることは調査の中でもわかりました。市
民相談を受けて、私も視察をさせていただきましたが、三好山の登山口には適
切な案内板のようなものがないことが、まずは課題ではないかと感じました。
また、ガイドマップなどはあるのか、1問目でいただくご答弁の情報発信につ
いての取り組み、はにたん等の活躍は知っておりますが、市民相談でお受けし
た情報発信、案内等についてはどうなのか、まだまだ不足しているのではない
かと思いました。

しかし、誰もが魅力を感じ、安らぎとゆとりと潤いを感じるまちづくりに向
かっているのか、私はガイドマップの内容の見直しや充実が必要なことだと感じ
ます。特に、障がい者の皆さんへの配慮も大事にさせていただきたいと思いま
す。観光振興計画では、本市の魅力発信が十分でなかった面があると記されて
いますが、2問目の1つ目として、情報発信としての案内板の整理された設置
やガイドマップの充実、市民相談でお受けした聴覚障がいのある方等への配慮
について要望したいと思いますが、見解をお聞かせ願いたいと思えます。

2つ目には、適切な情報発信のあり方で、さらに誰もが魅力を感じるまちづ
くりとして、外国人旅行者への配慮も大切であると思えます。大阪府の観光統
計調査によると、平成22年度本市への旅行者は全体の0.3%で、平成18年
度から0.8%減少しておりますが、ご答弁で、日帰り観光が主流とのお考え、
振興計画にある大阪と京都の中間としての集客方法が大切な視点だと感じてい
ます。昨年、国土交通省からは、日本を訪れる外国人旅行者数を現状の倍以上
となる2,000万人までふやすことを目指す観光立国実現のためのアクション
プログラムが発表され、本年6月には改訂されています。本市は、国のアクシ
ョンプログラムに対して今後どのように取り組んでいくのか、高槻市観光振興
計画は来年度見直しの時期に当たりますが、外国語の案内等をどのように考え
ていくのか、現状と今後のあり方をお聞かせ願います。

<PAGE="145">

○産業環境部長（田中之彦） 観光施策と案内等に係る2問目のご質問にご答
弁申し上げます。

まず、案内板等の情報発信ツールにおけます、聴覚障がい者の方など障がい者の方への配慮についてでございますが、来訪者にとってわかりやすい案内表示を初め、入手しやすい観光情報、快適な歩行空間など、どなたにとってもスムーズで便利な観光基盤の整備は、観光振興にとって必然の要素であります。現状ではまだまだ整備が行き届いていないと認識いたしております。今後につきましては、先駆的に取り組みを進めている他の自治体等調査研究を進め、市民の声を受けとめながら、本市の魅力を、より発信できるよう検討してまいります。

次に、本年6月に改訂されました、国の観光立国実現に向けたアクションプログラム2014では、2020年のオリンピックを見据えた観光振興やインバウンドの飛躍的拡大に向けた取り組み等の柱を立て、効果的な施策展開を推進していくと明記しており、地域の観光振興の促進に向けては、観光地域としての魅力を磨き上げる取り組みを総合的に支援していくとしております。本市におきましては、今後、国の動向を注視しながら、次期高槻市観光振興計画に反映させ、観光都市高槻を目指した取り組みを検討してまいりたいと考えております。

また、外国語等の案内などにつきましては、現状十分とは言えず、これからは、無料の公衆無線LAN環境の整備や多言語対応等さまざまな展開が必要であり、きめ細やかなおもてなしを基本に観光まちづくりに努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○（吉田章浩議員）最後に、意見、要望とさせていただきますが、高槻の豊かな自然や古代から現代までの貴重な歴史的遺産等の観光資源を生かした今後の観光施策につきましては、環境の変化や時の流れを鑑み、観光都市高槻を目指すとのこと。2問目でご答弁いただいたように、今後しっかりと市民の声を受けとめていただき、誰もが本市に魅力を感じ、安らぎとゆとりと潤いを感じられるまちづくりを、手段としての観光の面からは、楽しみながら安全に目的地に行けるよう、情報発信や案内等の充実を進めていただきたいと思います。

観光手段の位置づけは違うと思いますが、高山市では、高齢者や障がい者に観光政策を、観光活性化の最優先テーマに設定していると聞いております。どうぞ、この点もしっかりと調査しながら進めていただきたいと思います。また、本市の観光振興計画にある市民意識調査によりますと、市外在住者が本市を知ったきっかけには、友人・知人などからが33.2%で、テレビ・ラジオ、新聞や雑誌、インターネット、ポスター・チラシなどからの合計では20.1%と、

広告媒体の効果が効率よく発揮できていない現状があるのではないかと感じました。次期計画に向けてしっかりご検討をお願いしたいと思います。ただ、目的地が明確でないとご案内もできませんので、観光目的地の内容の充実は当然必要です。また、振興計画では交流人口の増加を図る上で、来訪者にとってわかりやすい案内表示を初めとして、入手しやすい観光情報、快適な歩行空間、利便性の高い移動手段などスムーズで便利な環境がそろうことが、集客まちづくりへの前提と記されていますので、今後の全庁的な取り組みにも期待をしていきたいと思えます。

質問の趣旨は異なりますが、本市で暮らす方々や来訪者にとってのわかりやすい案内表示としては、災害が起こった場合の避難所等への案内や、市民等が市役所などの公共施設を訪れたときの庁内の案内表示の統一感も、関連して重要なことだと思います。これも、市民相談でいただいたことですが、子どもや障がい者、外国人の方々へのやさしい日本語を通じた案内表示、情報発信の重要性をお聞きしています。ぜひ、ご検討をお願いしたいと思います。

最後に、今回は、高槻市の観光施策と案内等についてお聞きいたしました。そして、高槻市の観光施策としての取り組みのこれからの重要性を感じました。また、地域のビジネスとの密接な関係性も理解しました。情報が氾濫している時代ですので、見た目にも内容的にも充実、整理された情報発信ができ、例えば今の時代に合わせたスマートフォン等の端末機器を使ってのAR機能やWi-Fi機能の活用、整備等も充実させ、誰もが魅力を感じる観光づくりに期待していきたいと思えます。高槻にあふれる魅力的な観光資源、自然環境や歴史遺産等、私はこれらの観光情報の案内、情報発信は、観光現場の魅力を伝える人、市の担当者の情熱がキーワードだと感じています。そしてまた、産業振興課の頑張りも知っております。その上で、これからの観光都市高槻への取り組みに期待を寄せまして、一般質問を終わります。

以上です。

<PAGE="146">